
基礎老化学会サーキュラー 第 115 号

日本基礎老化学会 Japan Society for Biomedical Gerontology

2020年10月1日 発行



新型コロナウイルスの感染拡大で、普段の生活が大きく様変わりしてしまいました。ほとんどの学術集会が中止や Web 開催に変わり、研究環境も激変しています。収束に向かいつつあると念じていますが、会員の皆様と直接お会いできない日々が続いています。変わらず研究・教育を進められていると願っております。さて、2020 年度上期の学会活動現況をお知らせします。リモートでの理事会等で新しい取り組みも決定しました。会員の皆様から、様々なご意見をお待ちしていますので、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

庶務理事 清水孝彦

【目次】

・ 2020 年度上期ニュース

- 1、第 43 回（2020 年）日本基礎老化学会大会が誌上開催に
- 2、第 41 回（2020 年）日本基礎老化学会シンポジウムは Web 開催に変更
- 3、第 1 回（2020 年）市民フォーラム in 松本の開催準備進む
- 4、第 44 回（2021 年）日本基礎老化学会大会がハイブリッド開催に変更
- 5、第 45 回（2022 年）日本基礎老化学会大会が京都で開催決定
- 6、IAGG-World2021@Buenos Aires が 1 年開催延期で 2022 年度に
- 7、IAGG-AOR2023 と第 33 回（2023 年）日本老年学会が横浜で連続開催
- 8、日韓合同シンポジウムは 2022 年度の日本開催から再開へ
- 9、2021 年 4 月から学生会員年会費無料化と 9 月から事務局外部委託決定
- 10、理事選挙告知

・ 日本基礎老化学会関連行事 今後の開催予定

・ 事務局からのお知らせ

・ 会員動向

・ 賛助会員一覧

・ 理事会（第 1、2 回）、評議員会（第 1、2 回）、総会議事録（第 1 回）

・ 2020 年度上期ニュース

1、第 43 回（2020 年）日本基礎老化学会大会が誌上開催に

第 43 回（2020 年）日本基礎老化学会大会が新型コロナウイルス感染拡大のため誌上発表に変更して開催された。基礎老化研究誌 44-2 号（大会号）にプログラムや発表要旨が掲載。

http://www.jsbmj.jp/news/2020_index.html

<http://www.jsbmj.jp/products/products.html>

2、第 41 回（2020 年）日本基礎老化学会シンポジウムは Web 開催に変更

第 41 回（2020 年）日本基礎老化学会シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大のため 2020 年 11 月 13 日（金）～14 日（土）に Web 開催予定。現在、参加申込み中。

http://www.jsbmj.jp/news/2020sympo/2020_sympo.html

3、第 1 回（2020 年）市民フォーラム in 松本の開催準備進む

第 1 回（2020 年）市民フォーラムが 2020 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）に松本市でのリアル開催準備が進んでいる。現在、参加申込み中。

<http://www.jsbmj.jp/2020forum/Index.html>

4、第 44 回（2021 年）日本基礎老化学会大会がハイブリッド開催に変更

第 44 回（2021 年）日本基礎老化学会大会・第 32 回日本老年学会がハイブリッド開催に変更された。初日 2021 年 6 月 11 日（金）の合同会は Web による開催、6 月 12 日（土）～13 日（日）の 2～3 日目の当分科会は国立長寿医療研究センターでのリアル開催で準備が進んでいる。

<https://site2.convention.co.jp/32rounen/>

5、第 45 回（2022 年）日本基礎老化学会大会が京都で開催決定

第 45 回（2022 年）日本基礎老化学会大会は細川昌則大会長のもと、京都市で開催されることが決定した。日時は未定。

6、IAGG-World2021@Buenos Aires が 1 年開催延期で 2022 年度に

IAGG-World2021@Buenos Aires が世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため 1 年順延され、2022 年度に延期された。詳しい開催日程は未定。

<http://www.iagg2021.org/>

7、IAGG-AOR2023 と第 33 回（2023 年）日本老年学会が横浜で連続開催

IAGG-AOR2023 と第 33 回（2023 年）日本老年学会がパシフィコ横浜ノースで

2023 年 6 月 12 日（月）～15 日（木）および 16 日（金）～18 日（日）に連続開催されることが決定した。

<http://geront.jp/iagg/index.html>

8、日韓合同シンポジウムは 2022 年度の日本開催から再開へ

2020 年日韓合同シンポジウムは、第 43 回（2020 年）日本基礎老化学会長崎大会内での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、誌上開催に変更となった。2021 年度は開催中止が決定した。今後、新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かえば、2022 年度の日本での開催から、再開することを予定している。

9、2021 年 4 月から学生会員年会費無料化と 9 月から事務局外部委託決定

第 2 回理事会と第 2 回評議員会での審議で、学生会員数増と大会での演題登録増を目的に、2021 年 4 月から学生会員年会費無料化が決定し、それに伴い運営細則が変更された。また、源泉徴収税対応、効率的・円滑な会員管理と会費徴収を進めるため、2021 年 9 月に事務局の外部委託を行うことが決定された。詳細な費用見積と移管スケジュールを立て、外部委託を進める予定。

<http://www.jsbmj.jp/regulations.html>

10、理事選挙告知

選挙管理委員会（樋口 京一 委員長）から、次期「理事選挙について」公告された（4 ページ参照）。2020 年 12 月中旬に立候補者および推薦候補者の募集、2021 年 1 月下旬の理事会で候補者決定、2 月中旬に正会員による選挙を Web による電磁投票で行うことが告知された。また、「理事選挙内規」（5 ページ参照）の修正が行われ、「理事長選出方法に関する内規」と共に HP 上で会員専用公開された。

<http://www.jsbmj.jp/regulations.html>

【重要】 日本基礎老化学会 理事選挙について【概要】

本会理事（定員 8 名；2021 年 4 月から任期 2 年間）の選挙は以下の要領で行われます；

- 1) 正会員からの立候補者募集（12 月中旬に実施予定）。
- 2) 現理事、現評議員からの理事候補者推薦（12 月中旬に実施予定）。
- 3) 1) と 2) をもとに、理事会において候補者を決定（2021 年 1 月下旬予定）。
- 4) 全正会員による理事選挙（2021 年 2 月中旬予定）。

※ 理事候補者は 11 月末までに、本年度までの年会費が納入されていることが必要です。
また、今年度を含む 3 年度にわたり会費を納入していない会員は、選挙権・被選挙権とも失
いますのでご注意ください（細則 1-3-3）。

会費についての問い合わせは学会事務局（secretariat@jsbmg.jp）にお寄せください。

立候補・推薦方法、投票方法

学会に e-mail address を登録している方

立候補・推薦方法、投票方法は順次 e-mail でお知らせします。

（会員による投票は Web による電磁投票予定：業者委託）

立候補・推薦は申請用紙を利用ください。（e-mail で配信）

e-mail address をお持ちでない方

学会に登録した住所へ、立候補・推薦用紙、投票用紙を郵送いたします。

記入して返送してください。

上記の投票期間前に投票方法についての e-mail が届かない、あるいは、投票用紙が届かない方は、e-mail あるいは電話で下記の選挙管理委員会へお知らせください。

日本基礎老化学会 理事選挙に関する問い合わせ先は以下の通りです；

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

信州大学バイオメディカル研究所・ニューロヘルスイノベーション部門（加齢生物学）

選挙管理委員会委員長 樋口 京一

e-mail: election@jsbmg.jp

Tel: 0263-37-2691

日本基礎老化学会理事選挙内規

1. 選挙で選ばれる理事の数は8名。
2. 理事の被選挙権は11月末までに、本年度までの年会費が納入されている正会員（理事、評議員を含み、学生、名誉、賛助会員は除く）とする。ただし理事の連続4期の重任はできない。また65歳を過ぎての理事就任はできない。
3. 理事の選挙権は正会員（理事、評議員を含む）とする。ただし3年間会費納入がない正会員は除く。学生、名誉、賛助会員は除く。
4. 理事候補者の募集は投票開始2ヶ月程度前（12月中旬頃予定）にA) 正会員からの立候補者募集、B) 現理事、現評議員からの理事候補者推薦、の方法で候補者の募集を行う。募集期間は1週間とする。
5. 理事候補者の選出は理事応募者から理事会が理事候補者を選出し、e-mailで会員へ告知する。e-mail addressを持たない会員へは郵送する。
6. 告知から2週間程度後に投票を開始し、投票期間は1週間、Webによる電磁投票を行う。ただしe-mail addressなしの会員は投票用紙の郵送での投票を受け付ける。（投票は2月中旬予定）
7. 投票は連記無記名投票（1～8名の理事候補者の連記）とする。有効投票率は定めない。
8. 選挙結果の開票および候補者の募集に関しては選挙管理委員会がこれに当たる。
9. 同点得票を得た場合はA) 年齢が若い候補者を当選とする、B) 年齢が同じの場合は女性候補者を当選とする。以上でも決しない場合は理事会が決定する。
10. 理事の選挙結果は会員へのe-mail, 学会ホームページ、および学会サーキュラーに広告する。また公式記録として残す。
11. 選出された理事は任期発効（4月1日）までに互選によって理事長を「理事長選出方法に関する内規」に則り選出する。ただし、理事長の重任は2期までとする。互選に関わる事務は選挙管理委員会がこれにあたる。同時に4月1日以降に臨時新理事会を開催し、新理事長の承認を得る（会則第12条）。理事長の互選結果は会員へのe-mail, 学会ホームページ、および学会サーキュラーに広告する。また公式記録として残す。
12. 理事の辞任により欠員が生じた場合は選挙管理委員会のもとで補選を行う。

令和2年8月18日 施行

日本基礎老化学会選挙管理委員会

委員長 樋口 京一 （信州大学）

内田 さえ （東京都健康長寿医療センター研究所）

本山 昇 （相山女学園大学）

森 亮一 （長崎大学）

・日本基礎老化学会関連行事 今後の開催予定

【年会】

2021 年

第 44 回日本基礎老化学会大会（6 学会合同会）

大会長：丸山 光生（国立長寿医療研究センター）

日時：2021 年 6 月 11 日（金）～13 日（日）

場所：国立長寿医療研究センターと Web によるハイブリッド開催

2022 年

第 45 回日本基礎老化学会大会

大会長：細川 昌則（京都光華女子大学）

日時：2022 年 5～6 月

場所：京都市予定

2023 年

第 46 回日本基礎老化学会大会（7 学会合同会）

大会長：未定

日時：2023 年 6 月 16 日（金）～18 日（日）

場所：パシフィコ横浜ノース

【シンポジウム】

2020 年

第 41 回日本基礎老化学会シンポジウム

世話人：堀田 晴美（東京都健康長寿医療センター）、三浦 ゆり（東京都健康長寿医療センター）

日時：2020 年 11 月 13 日（金）～14 日（土）

場所：Web 開催

2021 年

第 42 回日本基礎老化学会シンポジウム

世話人：嶋本 顕（山口東京理科大学）

日時：2021 年秋

場所：山口東京理科大学（山口県山陽小野田市）予定

【市民フォーラム】

第 1 回日本基礎老化学会市民フォーラム

世話人：丸山 光生（国立長寿医療研究センター）

日時：2020 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）

場所：信毎メディアガーデン（長野県松本市）、一部 Web 配信予定

【関連国際学会開催予定】

2022 年

The 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2022)

Date: コロナ感染拡大の影響で、2022 年に開催延期決定（日時は未定）

Place: Buenos Aires, Argentina

<http://www.iagg2021.org/>

2023 年

IAGG2023 Asia/Oceania

Date: June 12-15, 2023

Place: Pacific Yokohama North

2025 年

The 23rd World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2025)

Date: August 3-7, 2025

Amsterdam, Netherland

老化関連の国際会議や海外の老化研究施設をまとめた web site があります。

留学先や海外で開催される老化研究関連学会を探すのにご利用ください；

JenAge Information Center

<http://info-centre.jenage.de/ageing/meetings-calendar.html>

・事務局からのお知らせ

会員事務、学会事務等についてのお問い合わせは以下の本会事務局へお願いします。本学会をより良いものにするためには会員の協力が不可欠です。学会への要望等についても遠慮なく事務局へお寄せください。お待ちしております。

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2 東京都健康長寿医療センター研究所内
日本基礎老化学会事務局
FAX: 03-3579-4776、e-mail: secretariat@jsbmg.jp

【日本基礎老化学会入会のご案内】

入会希望の方は、日本基礎老化学会 web site (www.jsbmg.jp/contact.html) に掲載されている入会申込書 (MS Word 版) に記入し、事務局へ e-mail か郵便で送付してください。学生会員として入会の場合は、学生証などを PDF ファイルで添付してください。

【会費納入のお願い】

会費は正会員が 7,000 円 (理事 15,000 円、評議員 10,000 円)、学生会員は 2,000 円です。未納分についての確認は、事務局 (secretariat@jsbmg.jp) にお問い合わせください。

※学生会員は年に 1 度 (年度初め) 学生であることを証明できる書類を提示してください。大会に参加する場合は事務局受付での学生証明書提示も可能です。

【銀行振込の場合】

銀行振込の場合は、振込者の名前が事務局に通知されません。お手数ですが、振込んだ際には事務局にお知らせください (secretariat@jsbmg.jp)。

みずほ銀行 (銀行コード 0001)

大山支店 (支店番号 628)

普通 1034063

名前 (口座使用者): 日本基礎老化学会

【郵便局利用の場合】

郵便局間の振込

口座記号番号 00170-3-46043

加入者名 日本基礎老化学会

他金融機関からゆうちょ銀行に振り込む際の振込用口座番号

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 当座 0046043

【基礎老化研究誌購読について】

学会年会費（正会員、学生会員）には、簡易印刷版（白黒版）基礎老化研究誌購読料が含まれています。フルカラー版は学会 HP からダウンロードしてご利用ください。会員にはパスワードを配布しています。パスワードが不明の方は事務局（secretariat@jsbmg.jp）にお問い合わせください。

【日本基礎老化学会の賛助会員のご案内】

日本基礎老化学会では、科学研究を通じて高齢化社会に寄与することをめざしています。学会の活性化や会誌の充実に努め、さらに、その基盤の強化をはかるべく、個人や企業を対象にして広く賛助会員を募っています。会費は一口、年 5 万円です。賛助会員には以下の特典があります。

- （１） 学会誌「基礎老化研究」冊子体を毎号お送りいたします。
- （２） 「基礎老化研究」に広告（A4 半ページ）を年 3 回無料で掲載します。

賛助会員の詳細は学会事務局にお問い合わせください。

【基礎老化研究誌への広告掲載について】

基礎老化研究誌では広告を募集しています。

1 ページ 5 万円で年 3 回掲載します。ご希望の方は学会事務局にメールにてお問い合わせください。

【入退会、休会、住所等の変更、会費等】

入退会、休会、住所変更、会費、その他不明の事がありましたら、遠慮なく事務局へお問い合わせください。また、就職や異動等があった事と思います。大学の研究室や職場を離れた会員については、指導教官や上司から事務局へ連絡をいただくと大変助かります。

【退会について】

退会の処理を適切に行うために、下記の事項をお守りください。

- （１） 退会の際は、ご自身の署名と捺印のある退会届（書式自由）を事務局までお送りください。急ぎの場合は e-mail による退会手続きも受け付けます。
- （２） 日本基礎老化学会の会計年度は 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日です。退会が年度途中でも、その年度の「年会費」はお支払いください。退会予定の方は早めにお知らせください。

【e-mail について】（secretariat@jsbmg.jp）

学会事務局と会員の皆様との連絡に e-mail を活用しています。e-mail アドレスを変更した方は、本会事務局宛にお知らせください。協力をお願いいたします。

・ [会員動向](#)（2020 年 8 月 30 日現在）

正 会 員：232 名

学生会員：26 名

合 計：258 名

賛助会員：6 団体

・ [賛助会員一覧](#)

下記の諸団体が賛助会員として本学会を支えています。協力を感謝いたします。

賛助会員は随時募集しております。事務局にお問い合わせください。

あなたの会社も賛助会員として老化研究を支えてみませんか？

入会をお待ちしています！

ココロ力株式会社

小林製薬株式会社

大正製薬株式会社

東洋レヂン株式会社

日本水産株式会社

（株）ファンケル総合研究所

2020 年度第 1 回日本基礎老化学会理事会メール審議議事録



日時：2020 年 5 月 1 日(金)～12 日(火)

場所：メール審議

審議事項

1、2019 年度決算について（資料 1、2）

2019 年度予算の収支計算書（基金分も含む）と監査報告書

賛成：10 名

反対：0 名

賛成多数で、承認されました。

質問：（資料 1）の基礎老化研究 44-2（抄録号）の備考のところ、「第 42 回大会抄録代補助」では？また、シンポジウム費用の備考のところ、「第 40 回シンポジウム」ではないのですか？

回答：→「第 42 回大会抄録代補助」および「第 40 回シンポジウム」は、前年度予算で支払済み。基礎老化研究 44-2（抄録号）の補助と「第 41 回シンポジウム」は、まだ支払われていないので、支出がゼロ。2020 年度予算案（資料 3）に計上。

質問：44-2 号の出版経費が 2019 年度収支計算書で 0 円、および 2020 年度予算に 20 万円で双方に組まれているのは、すでに前年度に予算が組まれ承認された内容であるが故に、双方にそれぞれ記載しなければならないといった理由でしょうか？

回答：→44-2 号の出版経費は、3 月末までに支払われなかったため、収支計算書で 0 円とし、2020 年度予算に計上した。これまでは補助金の実施年度の前年度に前払いされていたが、今後は同じ年度となり、わかりやすくなる。

前回の理事会での議論で、これまでは大会、シンポジウムおよび会誌の補助金は実施年度の前年度に前払いしていたが、今回から、わかりやすくするため執行年度内での処理とした。

2、2020 年度予算案について（資料 3）

2020 年度予算案（基金分も含む）。

賛成：10 名

反対：0 名

賛成多数で、承認されました。

2020 年度第 1 回日本基礎老化学会評議員会メール審議議事録

日時：2020 年 5 月 12 日(火) ～ 22 日(金)

場所：メール審議

無回答：篠崎昇平



審議事項

1、2019 年度決算について（資料 1、2）

2019 年度予算の収支計算書（基金分も含む）と監査報告書

賛成：28 名

反対：0 名

賛成多数で、承認された。

2、2020 年度予算案について（資料 3）

2020 年度予算案（基金分も含む）。

賛成：28 名

反対：0 名

賛成多数で、承認された。

その他

審議事項と関連しないが、以下の意見があった。

1、個人的な意見だが、評議員年会費を 11,000～12,000 円に値上げしても、本会に貢献できるなら容認できる。

→事務局からの回答：年会費の値上げについて、あり方委員会で意見出しを行い、取りまとめて理事会に報告予定。

2、本会で英文誌の立ち上げを検討すべきではないか？

→事務局からの回答：2019 年 4 月に編集委員会で検討し、英文誌に関し、費用面、負担面、学会規模の面から現状では必要でないとの報告あり。過去、日本老年医学会英文誌 GGI 誌との連携が模索されたが実現できず。現状、本会から GGI 誌に年 10 程度公開されている。

2020 年度第 1 回日本基礎老化学会総会メール審議議事録



日時：2020 年 5 月 25 日(月) ～ 6 月 1 日(月)

場所：メール審議

正会員：191 名にメール送信

審議事項

1、2019 年度決算について（資料 1、2）

2019 年度予算の収支計算書（基金分も含む）と監査報告書

賛成：61 名（委任状含む）

反対：0 名

回答なし：130 名

正会員四分の二以上の回答で、かつ過半数以上の賛成により、承認された。

決算について以下の意見があった。

1、例年の総会では、事業報告や事業計画が報告されるが、今回は含まれていないのでしょうか？

→事務局からの回答：大会中止のため、理事会等の審議も進んでいない。優先的に決算と予算案の審議を行った。

2、大会の収支決算報告は、学会の会計報告の中に掲載した方が好ましい。

→事務局からの回答：現在、大会収支は独立しているが、学会会計に含めるのが一般的。法人化の議論とともに、今後の検討課題。

3、理事会等会議経費（旅費）の決算報告が 18 万円ですが、会議の回数にもよりませんが、先生方に学会運営を尽力していただいている上では予算案の金額をもう少し上げても良いかと思えます。

→事務局からの回答：学会内の会議および出張費用に関して、あり方委員会で意見出しを行い、取りまとめて理事会へ報告、検討予定。

2、2020 年度予算案について（資料 3）

2020 年度予算案（基金分も含む）。

賛成：61 名（委任状含む）

反対：0 名

回答なし：130 名

正会員四分の二以上の回答で、かつ過半数以上の賛成により、承認された。

2020 年度 第 2 回日本基礎老化学会理事会 議事録



日時：2020 年 8 月 5 日(水) 15:00-17:00 & 8 月 7 日(金) 15:00-17:00

場所：Teams Web 会議

出席者（敬称略）：丸山理事長、【理事】石井、近藤(7 日)、下川(5 日)、杉本、樋上、堀田、三浦、清水、【監事】海野、細川、【理事補佐】内田、萬谷、樋口委員長、福井評議員

欠席者（敬称略）：【理事】石神（委任状有）、近藤(5 日)、下川(7 日、委任状有)、

8 月 5 日の冒頭に丸山理事長から開会の挨拶があった。

報告事項として、以下の 16 項目が報告された。

1. 第 1 回理事会、評議員会、総会議事録：

清水 庶務理事より、5 月の大会開催中止に伴う理事会等の中止のため、メール審議による臨時理事会、臨時評議員会、臨時総会を開催し、2019 年度決算と 2020 年度予算が成立したことが議事録とともに報告された。また、堀田 会計監事より、2019 年度決算、および 2020 年度予算について再度説明があった。

2. 第 43 回(2020 年)日本基礎老化学会大会報告

大会長の下川 理事より、大会開催中止と誌面開催となったこと、あわせてその収支報告について報告があった。

3. 第 40 回(2019 年)シンポジウム報告

世話人の杉本 理事より、収支報告があり、学会からの補助金 20 万円のうち、余剰金 56,796 円の返金を進める報告があった。また、シンポジウム参加者は 83 名であり、盛会に終わったことが報告された。報告記は会誌に掲載予定。

4. 第 44 回(2021 年)日本基礎老化学会大会準備状況報告

大会長の丸山 理事長より、2021 年 6 月 11 日(金)-13 日(日)に名古屋国際会議場で老年学会総会内で開催予定であり、ハイブリッド開催の議論が始まっている旨の報告があった。

5. 第 41 回(2020 年)シンポジウム準備状況報告

世話人の三浦 理事より、2020 年 11 月 13 日(金)-14 日(土)に YouTube を用いた Web 開催する説明があった。参加登録を開始し、現在 32 名の申し込みがあると報告された。会誌 9 月号にプログラムや要旨が掲載されると報告された。

6. 第 1 回(2020 年)市民フォーラム準備状況報告

世話人の丸山理事長より、2020 年 11 月 7 日(土)-8 日(日)に松本市信毎メディアガーデンで開催準備中であることが説明された。公に開催自粛が出されない限り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を施し開催する旨の報告があった。また一部プログラムのオンライン発信も計画を準備中とのこと。会誌 9 月号にプログラムを掲載予定であると報告された。

7. IAGG2021@Buenos Aires の開催 1 年延期について

清水 庶務理事より、2021 年 6 月開催予定の IAGG-World が 1 年開催延期（開催日時は未定）になる旨の連絡が日本老年学会事務局より届いたと報告があった。

8. IAGG-AOR2023@Yokohama 第 1 回組織委員会報告

清水 庶務理事より、IAGG-Asia が 2023 年 6 月 12 日-15 日にパシフィコ横浜ノースで開催されること、連続開催として第 33 回日本老年学会が同じ会場で開催されること、2029 年の IAGG-World の日本（京都）開催の招致活動を行っていることが報告された。

9. 編集委員会報告

石井 委員長より、4 月と 7 月のメール会議議事録報告、44-2 号の大会号の発刊、および今後の発刊と特集企画について説明があった。また、コロナ禍での対応として、大会開催中止に伴う若手会員の発表機会の喪失を補填する目的で、総説執筆を若手研究者に優先する旨の報告があった。

10. 広報・HP 委員会報告

杉本 委員より、HP 役員欄にリサーチマップ（研究者マイポータル）をリンクしたことの報告があった。リンクを希望しない場合は、リンクを外すことができると説明された。

11. 学術交流委員会報告

樋上 委員長より、日韓合同シンポジウムの開催に関し、韓国側の CK-Lee 教授とメール打合せを行い、2020 年度と 2021 年度の 2 年間開催中止とすること、2022 年度の日本開催から再開したいとの希望があることが報告された。

12. あり方委員会報告

丸山 委員長より、「後援・共催のルール化について」、「委員会等の費用負担について」、「学生会員の無料化」、「仮会員制度のルール化」、「年会費の値上げについて」委員会で議論し意見出しが行われたことが説明された。理事会の審議事項とする旨の報告があった。

13. 選挙管理委員会報告：

樋口 委員長より、次期「理事選挙について」の公告の説明があり、2020 年 12 月中旬に立候補者および推薦候補者の募集、2021 年 1 月下旬の理事会で候補者決定、2 月中旬に正会員による選挙を Web による電磁投票の予定であることが報告された。また、「理事選挙内規」案を作成され、被選挙権、選挙権、選挙法、選挙結果の報告、新理事承認等の説明があった。また「理事長選出方法に関する内規」の補足説明があった。

14. 老年学会あり方委員会報告

清水 委員より、日本老年学会のあり方委員会が、3 月と 5 月に開催され、高齢者の自動車運転に関する現状と問題点や今後の方向性について、2 名の専門家の話を伺ったとの説明があった。2021 年の第 32 回日本老年学会名古屋大会で高齢者の自動車運転に対する提言を行う方向であると報告があった。

15. 老年学会将来検討委員会報告

福井 委員より、賛助会員を分野を広げて募ること、新規加盟のプロセス、理事定数の見直し、名誉会員の推薦条件について、会則の見直しを行うことが報告された。また、各分科会からの委員に若手 1 名を加えて、若手企画シンポジウムを 2023 年の合

同会で始めることが報告された。IAGG-World の招致活動への協力要請の説明があった。

16. 事務局外部委託検討報告：

清水 庶務理事より、現在、事務局として対応できていない源泉徴収税の問題、窓口対応遅延問題、会員管理の効率化を改善し、将来的な法人化を視野に検討するため、事務局業務を受託する業者について調査および費用見積もりの報告があった。6 社の業務内容と見積等を比較し、国際文献社と毎日学術フォーラム社について、現状との比較表が提示された。現状は、週 1 日の会員管理を中心とした業務で人件費 65 万円弱であり、外部委託した場合、平日全日の会員管理、マイページ利用、源泉徴収税対応の業務で、初年度約 130 万円、2 年目以降は約 100 万円の委託費が算定されていることが報告された。理事会の審議事項とする旨の報告があった。石井理事より、外部委託した場合、会誌の配送や大会時の学会受付について質問があり、会誌の配送はこれまで通り行えること、大会時の学会受付は、有償で行えることが説明された。後者については役員が分担するなどが代替案として説明された。

8 月 7 日の冒頭に丸山理事長から引き続き、審議を行う旨の開会挨拶があった。

審議事項として、以下の 9 項目が審議された。

1. 後援・共催のルール化について

学術交流委員会での審議で決定し、有償の場合は理事会承認を得ることが承認された。

2. 委員会等の費用負担について

極力予算削減を行い、費用が発生する場合は、執行部が臨機応変に判断することが承認された。

3. 学生会員の無料化

2021 年 4 月開始予定で、学部生（短大）から大学院生までが対象。オンライン会誌のみ。基本的に学生証の提示が必要。大会参加費は支払うこと、指導教官の入会義務はないことが、承認された。堀田理事より、学生会員数と正会員数を合わせた人数を会員数として老年学会に報告するのか、質問があった。清水 庶務理事より、現在、日本学術協力団体として、正会員数と学生会員数を分けた人数を報告しているため、老年学会にも分けて報告する予定であること、また学生会員の卒業後の幽霊化を防ぐために、事務局から密な情報共有を進めることも説明された。さらに、運営細則（1-3-1,-3）の変更を伴うため、評議員会での承認を進めることが補足された。

4. 仮会員制度のルール化

2019 年度実績として、9 名中 5 名が正入会したことが報告された。今後は年会やシンポジウム等のイベントがオンライン化されていく傾向も鑑み、本制度を継続するが、これまでの会場での仮入会申込書の配布に加え、大会やシンポジウムなどのイベント後の 1 ヶ月間の期間限定で募集することを学会 HP 等で周知することが、承認された。

5. 年会費の値上げについて

年会費の値上げに対し、十分な説明と見合ったメリットがあれば要検討すること、値上げの場合は、運営細則変更を伴うため、改めて理事会、評議員会で審議することが確認された。

6. 理事選挙内規について

樋口 委員長より、再度、公告文と内規案について説明があり、電磁投票の外部委託費が約 13 万円程度と報告があった。丸山理事長より、過去の内規は役員選挙内規であり、評議員選挙が無くなったことから、新たな理事選挙内規とすることが提案され、承認された。また補選に関する項目を追記することが提案され、承認された。清水庶務理事より、理事の定年を 65 歳に決めずに、年齢制限無し、もしくは 75 歳が人材確保として好ましいのではと提案があった。樋上理事と石井理事から若手理事の登用、アカデミックポジションは 65 歳が主流であることから、65 歳を過ぎると新たに理事に選任されないのが好ましいと意見があり、細川監事の支持もあり、承認された。また現会員の年齢構成を調べて報告することが、庶務理事より提案された。

7. 事務局外部委託について

清水 庶務理事より、再度、事務局外部委託比較表について説明があり、当会の HP 上にマイページを導入した事例が追加資料で提示された。また、毎日学術フォーラム社のマイページを外した見積価格が 65 万円弱となり、現状の人件費と同等になることが報告された。樋上理事より、マイページを外した外部委託が妥当との意見があり、現在の山谷事務員の雇用形態や外部委託した場合の雇用について質問があった。清水庶務理事より、山谷事務員は週 1 日、学会が雇用しており、外部委託した場合は雇用を失うこと、他に主仕事に就いていることが説明された。石井理事より、マイページを外した外部委託が妥当であり、委託する場合は 1 年後の 9 月から移行するのが適切との意見があった。堀田理事より、委託するメリットについて再度説明を求めることと、外部委託した場合のデメリットも考える必要があるとの意見があった。清水庶務理事より、メリットは源泉徴収税対応、平日全日の対応による円滑な会員管理、会費徴収の円滑化などがあると説明があった。萬谷庶務理事補佐から、会計幹事の経験から、謝礼や事務員への給与支払いに源泉徴収税処理を行わない違法状態は大きな問題であり、任意団体の現状でも速やかに改善することが求められ、源泉徴収税処理は煩雑な作業なため外部委託の必要性が述べられた。また、海野監事は、外部委託の方向性が妥当であるが、雇用に関する手当を考慮すべきとの意見があった。細川監事は、源泉徴収税処理の違法状態は問題である旨の意見があった。意見出しの後、採決が行われ、過半数以上の賛成多数で、2021 年 9 月の事務局外部委託は承認された。理事長より、今後の進捗は随時報告することが説明された。

8. 第 45 回(2022 年)大会大会長について

細川大会長が承認された。大会長より、京都での大会は 1999 年以来であり、延期された IAGG-World との開催時期を鑑みながら準備を進めることが説明された。近藤理事、杉本理事、加えて執行部が協力することも確認された。また同年開催予定の日韓合同シンポジウムに関しては、2022 年 JSBMG シンポジウム開催について内諾を頂いている小野先生（熊本大学）との調整も含め、開催を考える可能性も確認された。

9. 第 46 回(2023 年)大会(合同会@横浜)大会長について

丸山 理事長より、2021 年 1 月の理事会までに決定して、老年学会に報告する必要があること、合同会大会長が大内先生であることが説明された。まずは本理事会において出席理事の中から立候補を募ったが、立候補者は出なかった。事務局より大会長候補者を募るメールを理事と評議員（自薦を含む）に配信し、自他薦候補者の中から事務局がリストを作成する。そのリストを基に理事の中での議論にて、大会長の選定を行うことが提案され、承認された。大会長を 2021 年 1 月までに決めるために、臨時理事会の開催も予告された。

2020 年度 第 2 回日本基礎老化学会評議員会 議事録



日時：2020 年 8 月 19 日(水) 14:00-15:15

場所：Teams Web 会議

出席者：【評議員】赤津、遠藤、大澤、柿澤、近藤、重本、嶋本、千葉、豊田、中川、旗野、林田、樋口、福井、町田、本山、森(政)、安田、柳井、山下、渡辺、【執行部】丸山、堀田、石井、清水、【監事】海野、【理事補佐】内田（敬称略）

欠席者：【評議員】木村（委任状有）、篠崎、田中（委任状有）、森(亮)（委任状有）、【監事】細川、【理事補佐】萬谷（敬称略）

冒頭に丸山理事長から開会の挨拶があった。

次に、評議員会議長選出を行い、本山評議員が議長に選出された。

本山議長の進行により報告事項として、以下の 18 項目が報告された。

1. 第 1 回理事会、評議員会、総会議事録：

清水 庶務理事より、5 月の大会開催中止に伴う理事会等の中止のため、メール審議による臨時理事会、臨時評議員会、臨時総会を開催し、2019 年度決算と 2020 年度予算が成立したことが議事録とともに報告された。また、堀田 会計監事より、2019 年度決算、および 2020 年度予算について再度説明があった。

2. 第 43 回(2020 年)日本基礎老化学会大会報告

大会長の下川 理事の代理として、清水 庶務理事より、大会開催中止と誌面開催となったこと、あわせてその収支報告について報告があった。

3. 第 40 回(2019 年)シンポジウム報告

世話人の山下 評議員より、収支報告があり、学会からの補助金 20 万円のうち、余剰金 56,796 円の返金を進める報告があった。報告記は会誌に掲載予定。

4. 第 44 回(2021 年)日本基礎老化学会大会準備状況報告

大会長の丸山 理事長より、2021 年 6 月 11 日(金)-13 日(日)に名古屋国際会議場で老年学会総会内で開催予定であり、ハイブリッド開催の議論が始まっている旨の報告があった。

5. 第 41 回(2020 年)シンポジウム準備状況報告

世話人の堀田 理事より、2020 年 11 月 13 日(金)-14 日(土)に YouTube を用いた Web 開催する説明があった。参加登録を HP 上で開始していると報告された。会誌 9 月号にプログラムや要旨が掲載される予定。

6. 第 1 回(2020 年)市民フォーラム準備状況報告

世話人の丸山理事長より、2020 年 11 月 7 日(土)-8 日(日)に松本市信毎メディアガーデンで開催準備中であることが説明された。公に開催自粛が出されない限り、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を施し開催する旨の報告があった。また一部プログラムのオンライン発信も計画を準備中とのこと。会誌 9 月号にプログラムを掲載予定。

7. IAGG2021@Buenos Aires の開催 1 年延期について

清水 庶務理事より、2021 年 6 月開催予定の IAGG-World が 1 年開催延期（開催日時

は未定)になる旨の連絡が日本老年学会事務局より届いたと報告があった。

8. IAGG-AOR2023@Yokohama 第1回組織委員会報告

清水 庶務理事より、IAGG-Asia が2023年6月12日-15日にパシフィコ横浜ノースで開催されること、2029年のIAGG-Worldの日本(京都)開催の招致活動を行っていることが報告された。

9. 編集委員会報告

石井 委員長より、4月と7月のメール会議議事録報告、44-2号の大会号の発刊、および今後の発刊と特集企画について説明があった。また、コロナ禍での対応として、大会開催中止に伴う若手会員の発表機会の喪失を補填する目的で、総説執筆を若手研究者に優先する旨の報告があった。

10. 広報・HP委員会報告

石神 委員長の代理として、清水 庶務理事より、HP 役員欄にリサーチマップ(研究者マイポータル)をリンクしたことの報告があった。リンクを希望しない場合は、リンクを外すことができると説明された。

11. 学術交流委員会報告

樋上 委員長の代理として、石井委員より、日韓合同シンポジウムの開催に関し、韓国側のCK-Lee教授とメール打合せを行い、2020年度と2021年度の2年間開催中止とすること、2022年度の日本開催から再開したいとの希望があることが報告された。

12. あり方委員会報告

丸山 委員長より、「後援・共催のルール化について」、「委員会等の費用負担について」、「学生会員の無料化」、「仮会員制度のルール化」、「年会費の値上げについて」委員会で議論し意見出しが行われたことが説明された。また理事会にて審議され、承認された旨の報告があった。

13. 選挙管理委員会報告:

樋口 委員長より、次期「理事選挙について」の公告の説明があり、2020年12月中旬に立候補者および推薦候補者の募集、2021年1月下旬の理事会で候補者決定、2月中旬に正会員による選挙をWebによる電磁投票の予定であることが報告された。また、「理事選挙内規」案を作成され、被選挙権、選挙権、選挙法、選挙結果の報告、新理事承認、補選等の説明があった。また「理事長選出方法に関する内規」の補足説明があった。

14. 老年学会あり方委員会報告

清水 委員より、日本老年学会のあり方委員会が、3月と5月に開催され、高齢者の自動車運転に関する現状と問題点や今後の方向性について、2名の専門家の話を伺ったとの説明があった。2021年の第32回日本老年学会名古屋大会で高齢者の自動車運転に対する提言を行う方向であると報告があった。

15. 老年学会将来検討委員会報告

福井 委員より、賛助会員を分野を広げて募ること、新規加盟のプロセス、理事定数の見直し、名誉会員の推薦条件について、会則の見直しを行うことが報告された。また、各分科会からの委員に若手1名を加えて、若手企画シンポジウムを2023年の合同会で始めることが報告された。IAGG-Worldの招致活動への協力要請の説明があった。

16. 第 45 回 (2022 年) 大会大会長について

清水 庶務理事より、理事会にて細川大会長による京都大会が承認された旨の報告があった。また丸山理事長より、京都での大会は 1999 年以来であり、延期された IAGG-World との開催時期を鑑みながら準備を進めることが補足された。また同年開催予定の日韓合同シンポジウムに関しては、2022 年 JSBMG シンポジウム開催について内諾を頂いている小野先生（熊本大学）との調整も含め、開催を考える可能性も説明された。

17. 第 46 回 (2023 年) 大会 (合同会@横浜) 大会長について

丸山 理事長より、2021 年 1 月の理事会までに決定して、老年学会に報告する必要があること、IAGG-AOR@Yokohama 大会と同じ会場での連続開催であること、合同会大会長が大内先生であることが説明された。また先の理事会において出席理事の中から立候補者を募ったが、立候補者は出なかったことも報告された。清水 庶務理事より、大会長候補者を募るメールを理事と評議員（自薦を含む）に配信し、自他薦候補者の中から事務局がリストを作成する旨の補足説明があった。そのリストを基に臨時理事会の議論にて、大会長の選出を 2020 年 12 月頃までに行うことが説明された。

18. 事務局外部委託について

清水 庶務理事より、現在、事務局として対応できていない源泉徴収税の問題、窓口対応遅延問題、会員管理の効率化を改善し、将来的な法人化を視野に検討するため、事務局業務を受託する業者について調査および費用見積もりの報告があった。6 社の業務内容と見積等を比較し、国際文献社と毎日学術フォーラム社について、現状との比較表が提示された。現状は、週 1 日の会員管理を中心とした業務で人件費 65 万円弱であり、外部委託した場合、平日全日の会員管理、マイページ利用、源泉徴収税対応の業務で、初年度約 130 万円、2 年目以降は約 100 万円の委託費が算定されていることが報告された。また、毎日学術フォーラム社のマイページを外した見積価格が 65 万円弱となり、現状の人件費と同等になることが報告された。理事会にて審議され、2021 年 9 月からマイページを外した内容で外部委託することが承認された旨が報告された。

審議事項として、以下の 1 項目が審議された。

1. 学生会員の無料化に伴う細則（1-3-1,-3）の変更について

清水庶務理事より、学生会員の無料化に伴う細則変更について変更点の説明があった。丸山理事長からの質問として、学生会員資格の学部学生に短大生も含まれる確認があった。本山議長の進行により、審議され、承認された。

閉会の前に、第二回理事会議事録が追加資料として提出されたこと、次回評議委員会が 2021 年 1 月末の定例理事会後に Web 形式で開催予定であることが説明された。



日本基礎老化学会サーキュラー 第 115 号

2020 年 10 月 1 日発行

日本基礎老化学会

企画・発行 日本基礎老化学会事務局

(編集 清水孝彦)

〒173-0015

東京都板橋区栄町 35-2

東京都健康長寿医療センター内

Web site: <http://www.jsbmg.jp/>

E-mail: secretariat@jsbmg.jp